

公共施設適正化と残すべき公共施設

松江市は、「公共施設適正化計画」を策定し、本市保有の多種多様な公共施設を将来にわたり、持続可能な量と質へ転換する取り組みを進めています。総論は賛成ですが、悩ましいのは旧町村を代表する施設が含まれていることです。

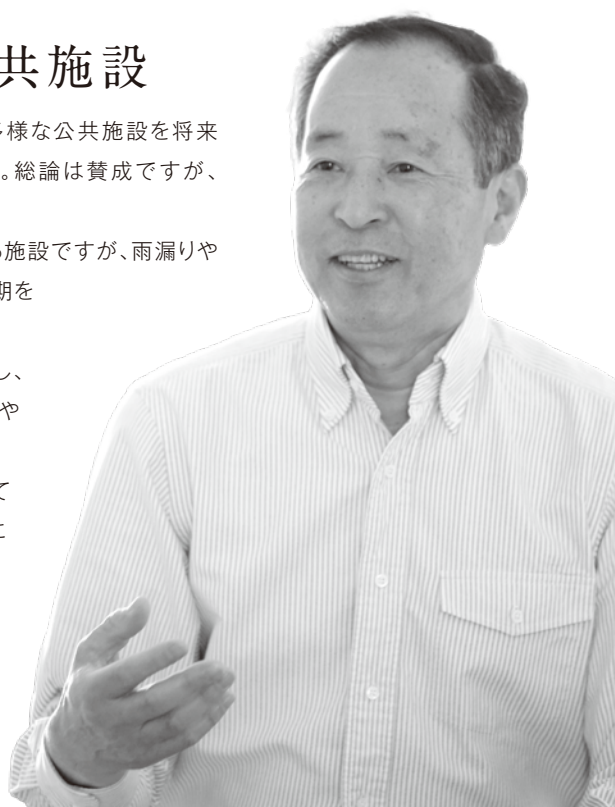
6月市議会一般質問でふれた「メテオプラザ」は美保関を代表する施設ですが、雨漏りや部材崩落等によって利用中止となり、今後の取り扱いを検討する時期を迎えたと市長答弁がありました。

東出雲に目を転ざると、今年度は旧東出雲ふれあい会館を取り壊し、来年度は旧支所（旧役場）を取り壊し、その跡地には揖屋幼稚園や揖屋ふれあい広場の遊具広場等が移転新設の予定です。

また、「東出雲おちらと村」は、現在は市の指定管理委託によって運営されていますが、「まちづくり協議会」がより一層の活用について取りまとめ、市長要望をする予定です。

東出雲町は旧町時代から観光施設等は取組まず、下水道や道路など住民生活に役立つ基盤整備に努めてきました。その中で、東出雲おちらと村は、東出雲を代表する施設であり、守るべき施設だと考えます。

少子高齢化社会に必要であり市が財政支援する公共施設として、引き続き活用できるよう頑張ってまいります。



補正予算など42議案を可決・承認

6月定例議会

松江市議会6月定例会は、7月3日に23日間の会期を閉じました。今議会は、条例案件9件、単行案件18件、一般会計補正予算など予算案件4件、承認案件8件、議員提出議案3件の計42件などを審査し、議案を全て可決しました。

また、陳情は、「訪問介護の基本報酬引き下げ撤回等と、介護報酬引き上げの再改定を早急に行なうことを求める意見書の提出」と「（仮称）殿町プロジェクト

マンション棟 計画地の取得」、「コロナワクチン接種後の体調不良に関する相談窓口の開設」、「8回目のコロナワクチン接種に際して60歳～64歳までの既往症のある方に接種券を個人的に送ることを止めるよう求める」の4件とも不採択としました。このうち、「マンション棟計画地の取得について」は、松政クラブでは計画地の取得だけの陳情であれば同意できるものの、代替え地候補も提案されたことから、松江市議会は主旨採択を採用していないので不採択という判断となりました。また、議員提出議案

「地方財政の充実・強化に関する意見書」と、松政クラブが起草した「緊急防災・減災事業債の継続・拡充を求める意見書」「中国横断新幹線（伯備新幹線）及び山陰新幹線の整備促進を求める意見書」は、3件とも可決しました。

一般質問は2・3ページで特集していますが、かなり省略しています。松江市議会 インターネット中継（media-streaming.jp）では、質問と答弁全てを動画で見ることができます。（予算金額や提出議案の詳細は市ホームページや市報等をご覧ください）

最近の活動から

東出雲の3幼保園の開園式がありました

4月8日、東出雲町内の市立出雲郷・揖屋・意東幼保園の開園式が3園であり、それぞれ出席しました。

東出雲町内の3市立幼稚園・保育園は、4月1日に認定こども園に移行し、名称も幼保園として新たなスタート。開園セレモニーは、市長挨拶や園名のプレート除幕などと続きました。まつえっこ体操を市長などと一緒に体操するなど、園児のみさんから元気をいっぱいもらった式でした。

東出雲町は単独町時代には幼保一体化事業として「幼児園」として運営してきたので、名前は違っても体制には変化がないと考えています。開園後は、主食のご飯は弁当持参から給食で提供されています。



意東幼保園での上定市長の挨拶

ヨリアイーナ東出雲敷地内に防災倉庫を新設

市役所東出雲支所では風水害等の災害発生の危険がある時には、地域災害対策本部を立ち上げ、市消防団東出雲方面団幹部も加わり警戒活動を行います。その際に、防災倉庫に備蓄した土嚢などの防災資材を分団等と連携して必要な場所に配置し防災に努めています。

支所が昨年6月に東出雲複合施設「ヨリアイーナ東出雲」内に移転してからも防災倉庫は旧支所倉庫にあったため、防災への迅速な対応が困難な状態でした。

東出雲方面団幹部の方から相談を受け、市の担当部に相談をする中で、令和5年度末に新しい防災倉庫が設置されました。



設置された防災倉庫

市議会もタブレット時代

松江市議会は県内8市のうち6市目で導入されたタブレット（貸与）を使い、文書の共有などができるシステムの講習会が、5月8日に市役所委員会室で開催されました。

このシステムの導入は、タブレットから始まるICT化と開かれた議会にあり、また、ペーパーレス議会による効率的な議会運営のために効果的なものといえます。

本回の講習会は、基本的な“文書を開く・ページをめくる・メモを書く・文書を切り替える”などや、タブレット端末の使い方を学びました。早速、6月市議会から、本会議や委員会等で活用しています。



タブレット端末機の講習会

宍道湖・中海問題等対策特別委の現地調査

5月27日に、松江市議会「宍道湖・中海問題等対策特別委員会」は、整備状況の現地調査を実施。

野々内はこの特別委員会委員長を務めています。対象となる河川・湖沼の所管は国土交通省と島根県、松江市の3者であり、委員会では3者担当者が出席の上開会します。数年ぶりの現地視察も同様に3者担当者が説明。視察箇所は市内4か所で、西尾町の大橋川拡幅に伴う「松崎島地区工事用道路事業」、大橋川左岸の「東本町地区護岸整備工事箇所」、黒田町他を流れる「中川河川改修事業」、市役所付近の「宍道湖松江地区護岸等整備工事」の現場でした。今後の委員会審議に向けて大いに参考になりました。



現地視察状況

9月定例議会予定

9月	
3日（火）	本会議（会期の決定、提案説明、決算特別委設置）、決算特別委員会
9日（月）	一般質問
10日（火）	一般質問
11日（水）	一般質問・議案質疑・委員会付託
13日（金）	決算特別委員会（質疑・分科会分担・委託）
17日（火）	総務委員会・予算委員会総務分科会・決算特別委員会総務分科会、教育民生委員会・予算委員会教育民生分科会・決算特別委員会教育民生分科会
18日（水）	総務委員会・予算委員会総務分科会・決算特別委員会総務分科会、教育民生委員会・予算委員会教育民生分科会・決算特別委員会教育民生分科会、建設環境委員会現地視察
19日（木）	経済委員会・予算委員会経済分科会・決算特別委員会経済分科会、建設環境委員会・予算委員会建設環境分科会・決算特別委員会建設環境分科会
20日（金）	経済委員会・予算委員会経済分科会・決算特別委員会経済分科会、建設環境委員会・予算委員会建設環境分科会・決算特別委員会建設環境分科会
26日（木）	決算特別委員会（分科会長報告・質疑・討論・採決）、予算委員会（分科会長報告・質疑・討論・採決）
10月	
1日（火）	本会議（委員長報告、質疑・討論・採決）、閉会

後援会のお知らせ

ののうち誠後援会にご加入いただき、一緒にまちづくりをしていきましょう。この度後援会だよりvol.52を発行いたしましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

ののうち誠 プロフィール

昭和25年生まれ 出雲郷小学校→東出雲中学校→島根県立松江農林高校→東出雲町役場就職（平成23年3月に町参事を最後に退職）→平成23年8月松江市議会初当選、平成25年4月2期目当選平成29年4月3期目当選、令和3年4月4期目当選

ホームページ、
ブログはこちらから



◆後援会事務局◆

〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670 TEL・FAX／0852-52-3117
Eメール nonouchi@mable.ne.jp <http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

34 回目的一般質問です

6月18日の34回目の一般質問は、一問一答方式で行いました。再質問は省略し記事は文面の都合上簡潔にしています。

Q1 松江城の保存活用について

（1）長野県松本市の松本城の保存・活用等について、行政視察する機会を得た。松本市は、風致地区や山々の優れた景観を保護する高度地区、屋外広告物規制、景観計画などを定め、計画的な城周辺整備を進めていた。本市との違いをどのように受け止めるか、考え方を伺う。

石本まちづくり部長 松江城でも、城周辺の景観形成は、歴史的な景観の保全・形成を目的に松江城からの眺望を守るため山の稜線に対する眺望基準を設けるなど行っている。

しかし、松本市と異なり、城周辺360度にわたって高さ規制をしておらず、城の南側の一部は、高層建築物の立地が可能な区域となっている。松江城から至近の場所に高層建築物が乱立するようない事態は避けなければならず、松江市景観審議会に「松江城からの眺望基準の見直し」と「松江城周辺の建物の景観基準の見直し」

を諮問したが、今後、高さ規制を含めた景観基準等の見直しを速やかに進め、松江らしい景観の保全・創出を図っていきたい。

（2）松江城の幕末維新期の姿を目指すとしたら、どのような埋もれた歴史的資源があるのか伺う。
桑原文化スポーツ部長 「史跡松江城保存活用計画」では、幕末維新期を含めた江戸時代の城としての文化財価値を次世代に伝えるため、石垣の修理など城を保存するための整備に加え、調査研究の成果に基づく建物の復元などの整備を行なう。



一般質問する野々内

Q2 市営バスと一畑バスの共同経営を問う

（1）今回発表の、市営バスと一畑バスとの共同経営計画の策定に向けて検討を深めることは必要なことと思う。広島市や岡山市の先例を踏まえ、共同運行をどのようにイメージすればよいか、本市の共同経営への意気込みを伺う。
石本まちづくり部長 重複路線の解消や効率化を図っていきたいと考えており、これらを実現するうえで共同経営は有効な手法であるものと認識している。

本市の「プロジェクトチーム」では、一畑、市営、本市の3者による「路線バスワーキンググループ」の開催や、共同経営も含めたバス再編の可能性を検討し、暮らしやすい未来を実現するための公共交通の実現に向けて、関係者と議論を進めていく。

（2）一定条件下で運転手がいなくても通行可能な「レベル4」の自動運転バスの導入を検討する考えはないか。また、市街地循環バスにも効果があると考えるか伺う。
石本まちづくり部長 本市では、

国内自治体初の自動運転バスを定常運行している茨木県境町を視察するなど、導入に向けた検討を着手。自動運転の導入に向けた

（2）重要な機能を持つメテオプラザの休館について市長の考えを伺う。このメテオプラザは島根半島を代表する建築物だが、今後はどうするか。

上定市長 メテオプラザは、地域の活性化を図ることを目的にして設置された施設であり、その目的を果たすため最大限活用されるべきであるが、老朽化が進む中で安全な利用に支障が出ていることから、一部エリアの利用を制限せざるを得ない状況となっている。

また、島根県の管理するフェリーターミナルの機能を有することから、今後メテオプラザの施設全体のあり方を検討する必要があるものと考えており、地元地域の皆様にご意見を伺いながら、島根県とともに検討を進めていく。

（3）市内の各施設、特に学校施設や公民館施設など建設から十数年以上経ち雨漏りや壁の塗装などの対策が行われていない状況も多くみられる。私の地域の出雲郷小学校体育館も同様だ。定期的な修繕を行うべきと考えるが、壊れたり修繕が必要になってから対応しているように見受けられる。修繕計画は適正に計画されているのか、また計画通りに行われているのか伺う。
藤原副教育長 学校設備修繕は、空調、トイレなどの設備種類毎に

課題を整理し、導入の国補助の活用や、どの路線への導入が効果的かつ効率的かなど、先例事例の調査や関係先へのヒアリングなどを通して検討を進めたい。



JR松江駅バスターミナル

Q3 被災者支援のためのボランティアセンターの機能について

（1）「出雲市総合ボランティアセンター」では、能登半島地震被災者に、市民・団体等と協働し街頭募金などの支援活動やボランティアを派遣する事業を行っている。松江市は能登半島地震で大きな被害を出した姉妹都市・珠洲市があり、取り組みが必要だ。なぜ松江市では取り組まないか伺う。

松原健康福祉部長 出雲市内でのボランティア派遣は、「出雲市総合ボランティアセンター」を運営する民間主体の任意組織である「出雲市総合ボランティアセンター運営

整備・改修・利用のための計画を策定し、この計画により着実に実施している。一方、校舎等の建物の維持修繕は関係法に基づき3年1度の定期調査の結果を踏まえて、緊急性の高いものから優先順位をつけて行っている。公民館も同様に、計画や定期調査によって行っている。緊急時に避難所になる学校や公民館の維持管理は、適切な状況把握と対応に努めていく。



メテオプラザ

Q4 公共施設の管理について
松江市内の公共施設管理が大変おそろかになっていると感ずる。多くの市民からも、苦情やあきらめの意見を伺うことが多くなった。先般、美保関のシンボリックな施設である「メテオプラザ」において、雨漏りや管理状況の悪さから部材が崩落し利用を中止したと聞いた。「メテオプラザ」の管理を通じて、本市の公共施設の管理について伺う。
（1）このような管理瑕疵ともいえる状況になり、歴代の観光部長やサンライズ美保関の社長の責任は大きいと思うが市長の所見を伺う。
上定市長 メテオプラザは、日本海に面する海岸線に立地している

ことから、市内の他の公共施設に比べても非常に劣化が早く、雨漏りの修繕対応などの措置が建設後早い段階から必要になっていたものと承知している。
これまで、指定管理者が天井の雨漏りや内外装の腐食などの不具合を確認し、本市がその旨の報告を受ける都度、不具合が発生していると考えられる箇所について速やかな修繕に努めてきた。しかしながら、メテオプラザの特殊な構造や屋根の形状によって不具合の原因となっている箇所や雨水が流れる経路を特定することができず、根本的な対策が講じられないまま、さらに施設の劣化が進むという悪循環に陥って現在に至っている。この間、本市としてできる限りの修繕に努めてきたものと認識しており、不作為の管理瑕疵はないと認識している。深刻な劣化の程度に鑑みれば、施設の今後の取り扱いについて検討すべき時期を迎えているものと捉えている。
メテオプラザは、島根県が管理する隠岐航路のターミナルとしての役割を担っており、島根県としても施設の老朽化に対応して、港湾ターミナル機能を維持・継続するためのアクションが必要との認識を共有しており、今後、島根県とともに検討を行なっていく。

以上、今回の質問は、サンライズ美保関に限らず、他の指定管理をしている市民活動センター（スティックビル）や松江テルサなどにもあたることだ。早く朽ちるまで待つということか。市施設の管理や施設を利用した活性化への努力が足らないと率直に感ずる。
それぞれ理由があつてできた施設であり、その思いを込めた管理や活用が求められる。該当する地域の皆さんと納得できるまで話し合ってほしい。